

国際漁業学会（JIFRS）短信

<https://www.jifrs.info/>

事務局 E-mail: jifrs.kaiyodai@gmail.com

郵便振替番号：00100-6-26448 国際漁業学会

振込：ゆうちょ銀行 店番 019 当座 店名〇一九店 口座番号 0026448

2026 年度第 1 号

2026 年 7 月 7 日刊

目次

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 理事挨拶① 「研究の多様性と国際漁業学会」 | 岩田 繁 英 |
| 2. 理事挨拶② 「外の分野ゆえにできることは何か」 | 小川 健 |
| 3. 2026 年度 JIFRS 大会（三重大会）のご案内 | 松井隆宏・山田二久次・若松宏樹 |
| 4. 2026 年度 JIFRS 大会シンポジウム | 松井隆宏 |
| 5. 2027 年度 JIFRS 大会シンポジウム企画募集 | 松井隆宏 |
| 6. 2026 年度研究会の報告と募集 | 宮田 勉 |
| 7. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼 | 東田啓作 |
| 8. 事務局だより | 事務局 |

1. 理事挨拶①「研究の多様性と国際漁業学会」

岩田繁英（東京海洋大学）

今期より理事を拝命することとなりました、東京海洋大学の岩田繁英です。これまでお世話になったこともありますので、お引き受けいたしました。不慣れなところが多くありますので、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

私と国際漁業学会の関係を振り返ったところ、2016 年に入会して以来のお付き合いだったことでした。2009 年に学位を取得した後、遠洋水産研究所（国際資源研究所を経て、現在の資源研究所）に入所し、2013 年に東京海洋大学に着任いたしました。前職では資源評価、資源管理に関する研究業務をしていたものの水産の世界に来て日も浅く、数理モデルという観点からの水産資源管理ということで水産の難しさを感じておりました。そのような中で、水産経済を専門とされている先生方とのつながりが少しずつできて、最終的にはとあるプロジェクトの研究報告をするために入会したものと記憶しております。その中で感じたものは、これまで私が実施してきた水産資源解析や数理生物学の知識が国際漁業学会における研究の一助となるという点です。

一方、世界的に AI の進歩が著しくなっております。その中で、データ同士の関連性は高度に数値化されて、人間には理解できないレベルで判断されます。そうすると、出力された結果を解釈するためにはデータをしっかりと理解できる、データの背景を理解する能力がこれ

まで以上に必要になってくるものと考えております。間違ったデータを使って得られたデータは意味のあるものとは言えません。そこで AI への入力前にも入力後の解釈という意味でも必要になってくるのが高度な人間の判断になってくるものと予想しています。国際漁業学会は多様な分野の研究者が揃っていると思いますのでそのような AI が優勢な時代においてもその特色を表現し活用していけばより本学会が活発になって行くのではないかと期待しております。

そのような意見の交流の場として本学会を発展させられるように務めたいと考えております。微力ながらも誠心誠意対応していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 理事挨拶②「外の分野ゆえにできることは何か」

小川たけし（専修大学）

何故か新理事に入る事になりました、小川たけしと申します。かつてご迷惑もおかけした不束者ですが出来る限り本学会に貢献するよう努めますので何卒よろしくお願いいたします。

私は本来、漁業に携わってきた人間でも水産・漁業経済を専門に担ってきた人間でもありません。確かに本学会には「長く続いてきた研究会が学会化された 2011(平成 23)に」実は入会しています。しかし再生可能資源としての漁業資源の入った貿易理論の「近経理論的な」分析を元々やっていた中で、漁業あるいは水産の経済・社会的な側面を知らないままではまずい面もあるかと思って入会した部分が強く、実態調査も実証分析も、実験的な分析も元々強くない人間です。自分の所属大学でも経済学部・国際経済学科という（国際は意識していても）漁業とは無関係な学科に、国際経済論を主担当とする形で入っているため、所属組織の中では漁業・水産には強そうというイメージこそあっても、担当科目の中に漁業・水産経済系の科目は想定されていません。

そういう「この学会の中で最も縁遠い」所にいる訳ですが、だからこそできる貢献もあるのかもしれない。この学会には水産・漁業経済関連の学会には珍しく「良いものは手法・学派を問わず受け入れる」という立ち位置があり、実際に様々な立場の研究報告がなされている訳ですが、「1 番遠い所にいる人間だからこそ見えるもの」という部分では私のような人間が本学会に貢献できる箇所があるように思います。

最近では他大学で（漁業経済を改編した）水産経済学の非常勤講師を任されるようになったこともあり、少しずつ皆様が常識として持っている学問分野も学んでいきたいと思っています。本務校の所属学科は「世界各地の地域経済を大切に」というタイプの学科なのですが、地球表面の約 71%を占める海（その中には漁業ももちろん含まれるわけですが）に主眼を置いた科目というのは無く、そうした科目を作れないかという試行の 1 つとして特殊講義の 1 つ「地域研究特殊講義」の中に「海の経済学」という副題を付けて少しずつカリキュラム変更時に備えた実績作りを実施している部分がございます。「海も地域」というのはかなり無理がある詭弁かもしれませんが、近年はそのようなことを取り組んでいます。

漁業・水産経済系の部分では全く話を聞くことのない専修大学という大学の所属で、学会員の中で本学会とは「最も縁遠い」所にいる人間ではありますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

3. 2026 年度 JIFRS 大会（三重大会）のご案内

松井隆宏（東京海洋大学）・山田二久次（三重大学）・若松宏樹（農林水産政策研究所）

2026 年度大会は下記の通り三重大学にて行うことになりました。実施方式は対面です。多くの会員、関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

会 場：三重大学生物資源学部（三重県津市栗真町屋町 1577）

日 時：2026 年（令和 8 年）8 月 29 日（土）～30 日（日）

日 程：8 月 29 日 午前：各種委員会・理事会

午後：シンポジウム

（漁村・地域活性化の多様な展開）

夜：懇親会

8 月 30 日 午前：個別報告（申し込み数が多ければ午後も）

午後：総会等

参加費：一般会員 2,000 円

一般非会員 3,000 円

ただし、地元漁業関係者や学生は無料

懇親会費：一般 6,000 円、学生 3,000 円

※懇親会へ参加される方は、7 月 24 日までに下記リンクからお申し込みください。

懇親会参加申し込みフォーム：<https://forms.gle/5QmqPp9UQq6PDXWt5>

◆報告予定者に向けた連絡事項

・個別報告について

個別報告は 1 報告あたり 25 分（質疑含む）の予定です。個別報告を希望する会員は、7 月 24 日（金）までに報告者の氏名、所属、および報告タイトル等を、下記のグーグルフォームでお送りください。

個別報告申し込みフォーム：<https://forms.gle/ikNd8ZXep2ZvUqWbA>

なお、発表者は会員に限られますので、未入会の方は学会 HP を確認し、入会手続きを行ってください。連名者は非会員でも問題ありません。

また、7 月 31 日（金）までに報告要旨（40 字×25 行以内）を、8 月 21 日（金）までにパワーポイント等による報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれ下記リンクからアップロードしてください。

個別報告要旨提出フォーム：<https://forms.gle/HLGJGsHPYQXRvnc7>

パワーポイント提出フォーム：<https://forms.gle/ajzV6z8seh6A2rie7>

個別報告の申し込みについてご不明な点がございましたら、メールで事務局までご連絡ください。

・報告論文について

個別報告の報告者におかれましては、大会終了後に報告内容をベースとする 10 枚までの（図表を含む）コンパクトな和文論文を「報告論文」として和文誌『国際漁業研究』に投稿

することができます。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じで（ただし、審査は原則として2回までとする）、掲載料は1万円となっています。報告予定者におかれましては、「報告論文」への奮っての投稿をお願いします。

2026年度の報告論文投稿受付期間は大会終了後から2026年9月18日までです。投稿規定に準拠した論文原稿と投稿票を、編集委員長（若松宏樹：hiroki_wakamatsu430@maff.go.jp）、編集幹事（神山龍太郎：kamiyama_ryutaro30@fra.go.jp）、大会特集担当（浪川珠乃：tnam001@kaiyodai.ac.jp）の3名を宛先としてご提出ください。個別報告時と内容が大きく異なる原稿や、分量が規定を上回る原稿は受付できません。

審査のスケジュールは以下の予定となっております。

- ・報告論文〆切 9月18日
- ・第1回審査結果の返却予定 11月下旬
- ・第2回審査結果の返却予定
 - ・第1回の判定が「B：修正が必要（編集委員による確認）」の場合、2月上旬
 - ・第1回の判定が「C：大幅な修正が必要（再査読）」の場合、2月下旬

※上記のスケジュールは査読や修正が期限通りに実施された場合の見込みであり、この期限通りに審査が進むことを保証するものではありません。

※「原稿の書き方」の細かな点が改訂されました。投稿をご予定の方は、HPからファイルをダウンロードいただき、改めて内容やチェックリストをよくご確認ください。

※報告要旨集は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ（<https://jifrs.info/>）からダウンロードをお願いします。（8月中旬に掲載します）

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

4. 2026年度 JIFRS 大会シンポジウム

松井隆宏（東京海洋大学）

《漁村・地域活性化の多様な展開》

趣旨：水産庁では、「海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、（中略）地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの」と定義し「海業」を推し進めているが、現実の海や漁村を含む「地域資源の活用」は、「地域のにぎわいや所得と雇用」に縛られず多様な展開をみせている。本シンポジウムでは、海や漁村を含む地域の活性化を広い視野から捉え、その多様な展開の実際および意義と可能性について検討したい。

座長：松井隆宏（東京海洋大学 准教授）

報告者（順番は検討中）

報告1：福井逸人（東海農政局 次長）

報告2：友廣裕一（シーベジタブル 共同代表）

報告3：千田良仁（皇學館大学 教授）

報告 4：大屋進之介（東京海洋大学 博士後期課程）・山田二久次（三重大学 准教授）・松井隆宏（東京海洋大学 准教授）

コメント 1：有路昌彦（近畿大学 教授）

コメント 2：調整中

※報告時間は 1 人 25 分程度で、2 人のコメンテーターからのコメントを挟み、最後に 1 時間～1 時間半程度のパネルディスカッションをおこないます。

5. 2027年度JIFRS大会シンポジウム企画募集

松井隆宏（東京海洋大学）

2027 年度 JIFRS 大会のシンポジウム企画を募集します。応募される方は下記の要領にて仮題と概要をお知らせくださいますようお願い致します。皆様からの奮ってのご応募をお待ちしております。

応募内容：仮題および概要（800～1,200 字程度）

応募締切：2026 年 8 月 7 日

連絡先：国際漁業学会事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）

応募内容をもとに立案した企画は、次号の短信に掲載する予定です。

6. 研究会の報告と募集

宮田勉（水研機構）

2026 年 6 月 19 日に研究企画委員会 研究集会を開催した。

開催趣旨：なぜマダコ価格はエビより高騰したのか（家計調査）。また、今後のマダコ需給はどのように推移するのか。現在、タコ流通のグローバル化、国内においては温暖化に起因すると推察されるマダコ産地の北上が生じている。その一方で、タコは、刺身、酢だこ、たこ焼き、明石焼き、タコ飯、タコの唐揚げや天ぷら、焼きダコ、踊り食いなど、各地域において特色ある食文化や祭礼等と深く結びついている（平川，2012）。さらに、明石、下津井、三原、志津川、日間賀島などの産地（調査結果）に加え、海外においてもタコが重要な観光資源・地域資源となっている（McCafferty et al. 2025）。

これらの背景を踏まえ、本報告では、国際的なタコ需給が日本のマダコ市場に及ぼす要因、東西アフリカおよび南アフリカにおける供給・輸出と消費の実態、国内におけるマダコ産地移動に伴う流通の変化、さらには観光資源としてのマダコ利用の現状について以下のとおり報告があった。また、マダコ養殖に関する技術革新は著しく、今後は養殖が世界の需給に大きな影響を及ぼす可能性がある。そのため、マダコ養殖技術開発の初期段階～最前線についても報告頂いた。

- (1) 宮田勉（水研機構）、国際商品マダコの国内市場構造：貿易動向と流通システム
- (2) 藤本麻里子（三重大学）、「アフリカにおけるタコ漁の二つのかたちー 西アフリカの輸出産業と東アフリカの小規模漁業 ー」
- (3) 及川光（岩手水技セ）、「海洋環境の変化によるマダコの生産と流通の変容ー三陸・岩手県の事例ー」
- (4) 今川恵（水研機構）、観光資源としてのマダコ利用の実態と漁獲量減少への対応ー愛知県日間賀島を事例としてー
- (5) 伊藤篤（水研機構）、マダコ養殖業の産業的意義と最新技術の展開：マダコ養殖産業の現在地

話題提供者の募集： 話題提供しても良いという方がおられましたら事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）に連絡頂ければと存じます。

7. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

東田啓作（関西学院大学）

2026年度の学会賞候補者の選考を開始します。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。推薦の際、歴代受賞者リストも参照ください。

国際漁業学会 学会賞の選考要領は下記の通りです。

授賞の対象は、以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。書籍については、2024年7月1日以降の業績が対象です。

<奨励賞>原則として40歳代以下(2026年7月1日時点)で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第23以降巻の掲載論文が対象となります。

募集期間：2026年8月7日(金)締め切り

推薦方法：推薦する対象者、賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS 会長（宮田勉 miyata.jircas(a)gmail.com (a)は@に変換ください）宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法：会員からの推薦をもとに、会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2026年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

◆学会賞（国内賞）の歴代受賞者リスト

(2026 年 7 月現在)

氏 名	受賞時所属・職名	受賞年月日	備 考
松田 恵明	鹿児島大学 名誉教授	2011 年 8 月 4 日	功績賞
真道 重明	-	2012 年 8 月 5 日	功績賞
八木 信行	東京大学 准教授	2012 年 8 月 5 日	学会賞
中島 亨	東京大学 特任助教	2012 年 8 月 5 日	奨励賞
松井 隆宏 原田 幸子	三重大学 准教授 株式会社地域資源経済研究所 研究員	2012 年 8 月 5 日	奨励賞
榎 彰徳	NPO 法人 消費者支援機構関西 理事長	2013 年 8 月 4 日	功績賞
有路 昌彦	近畿大学 准教授	2013 年 8 月 4 日	学会賞
猪又 秀夫	水産庁	2015 年 8 月 9 日	学会賞
小野 征一郎	東京水産大学 名誉教授	2016 年 8 月 7 日	功績賞
黒倉 寿	東京大学 名誉教授	2017 年 8 月 6 日	功績賞
阪井 裕太郎	Arizona State University Post-Doctoral Research Associate	2018 年 8 月 7 日	奨励賞
森下 丈二	東京海洋大学 教授	2020 年 8 月 29 日	学会賞
多 田 稔	近畿大学 教授	2022 年 8 月 28 日	功績賞
大石 太郎	東京海洋大学 准教授	2022 年 8 月 28 日	奨励賞

山田 二久次	三重大学 准教授	2022 年 8 月 28 日	奨励賞
神山 龍太郎	水産研究・教育機構 水産資源研究所 主任研究員	2022 年 8 月 28 日	奨励賞

8. 事務局だより

事務局

1) 今後の大会シンポジウムテーマ等について

今後の大会シンポジウムテーマや個別報告の「特別セッション」などにつきまして、企画提案を募っておりますので、ご提案や企画などがございましたら、事務局までご一報いただけますと幸いです。

2) 学会賞の推薦について

ご推薦のほど、よろしくお願いいたします。

3) 学会費について

お支払いがまだの方におかれましては、本短信の冒頭に振込先が記載しておりますので、ご対応のほど、よろしくお願いいたします。